

第2回国際原子力エネルギー協力フレームワーク（IFNEC） 運営グループ会合の結果について

平成23年5月31日
内閣府
原子力政策担当室

第2回 IFNEC 運営グループ会合（局長級）が平成23年（2011年）5月18～19日に韓国・済州島で開催された。以下に会合の結果概要を報告する。

1. 日程

開催日：平成23年（2011年）5月18日（水）～5月19日（木）
開催場所：新羅ホテル（韓国・済州島）

2. 主要国及び国際機関代表者

会合には、IFNEC “参加国”（Participant Countries、正式メンバー国）は14カ国、“オブザーバー国”（Observer Countries）が4カ国、“オブザーバー国際機関”（Observer Organization）はIAEA、GIFの2機関が参加（参加リスト参照）。主要国代表者は以下の通り。

○主要国代表者

米国（議長）：マクギニス エネルギー省次官補代理
日本（副議長）：梶田 内閣府大臣官房審議官
仏（副議長）：カルズィー原子力・代替エネルギー庁シニアアドバイザー（副議長代理）
中国（副議長）：ジアン国家能源局局長
韓国（ホスト）：ヤン教育科学技術部宇宙・原子力局長
IAEA（国際原子力機関）：ディック核燃料サイクル課長
GIF（第4世代原子力システム国際フォーラム）：平尾議長秘書

○我が方出席者

（内閣府）梶田審議官、西村主査
（経済産業省）朝日審議官、佐野企画官、鈴木調査員（燃料供給サービスWG 共同議長）
（文部科学省）伊藤係員

3. 第2回 IFNEC 運営グループ会合（局長級会合）結果

（1）ホスト国（韓国）より歓迎の挨拶

ホスト国である韓国教育科学技術部のヤン局長より歓迎の意が示されるとともに、日本で地震と津波により被災した方々へのお見舞い、福島原子力発電所で作業にあたっている方々への尊敬の念が示された。また、原子力政策の見直しを宣言した国もあるが、福島事故が起きても、ほとんどの専門家は温暖化防止の観点から原子力技術は必要と考えており、韓国にとっても原子力は諦めることのできないエネルギー源であることが述べられた。

(2) 正副議長挨拶、各国代表自己紹介

マクギニス運営グループ議長（米国）より、ホストの韓国へ感謝、我が国の地震・津波による犠牲者への追悼の意、被災者へのお見舞い、福島第一原子力発電所による被災者へのお見舞い、我が国へのできる限りの支援の申し入れが述べられた。

梶田審議官（運営グループ副議長）より、ホストの韓国への感謝、3月11日に発生した巨大地震と津波により日本は歴史的な被害を受けたが、世界中の国からの心強い支援への感謝、福島第一原子力発電所事故の発生については遺憾の意が示された。また、今も福島事故収束のために最大限の努力が継続中であり、今後も継続して事故に関する情報、教訓等の情報を積極的に共有していく旨述べられた。

ジアン副議長（中国）、カルズィー副議長代理（仏）の挨拶後、“参加国”のアルゼンチン、オーストラリア、ブルガリア、ドイツ、韓国、クウェート、オランダ、オマーン、ウクライナ、英国、“オブザーバー国”のエジプト、モンゴル、スペイン、シンガポール、“オブザーバー機関”のIAEA及びGIFの代表者からの挨拶がなされた。

(3) 福島第一原子力発電所事故の現状

冒頭、内閣府梶田審議官より、福島第一原子力発電所の事故を報告する機会を持つことへの感謝、今後も継続的に事故の状況を報告していくことが述べられた。

次いで、経産省朝日審議官より、福島第一原子力発電所の現状報告として、①地震と津波による被害状況、②主要な取り組み（炉心冷却状況、汚染水の海水流出、モニタリング状況、野菜の規制値超による出荷制限等）、③今後の活動（東京電力(株)作成工程表、他原子力発電所への緊急安全対策の実施）が報告された。

各国からは、福島原子力発電所の現状、事故の原因等に関する質問が行われた。

(4) 基盤整備WG・燃料供給サービスWGの合同会合結果、個別WGの活動状況

マティソン共同議長（英）より、本年4月にパリで開催された基盤整備WG・燃料供給サービスWGの合同会合において、地層処分に関する国際協力、中間貯蔵の役割等が報告されたことが紹介された。

バーカート基盤整備WG共同議長（米）より、同WG活動内容について、人材育成、廃棄物管理、中小型炉の経済性、新規導入国の支援、外部機関との交流等に関する取り組み状況を報告し、情報交換が行われたことが紹介された。

鈴木燃料供給サービスWG共同議長より、同WG活動内容について、各国及び事業者がフロントエンド、バックエンドに関する取り組み状況を報告し、情報交換が行われたことが紹介された。

(5) 原子力エネルギー事業のファイナンスに関する議論

前回のヨルダンでの執行委員会において、原子力エネルギー事業に関するファイナンスの議論は重要であるとの各国の共通認識が形成され、今回の運営グループ会合の議題に新たに盛り込まれた。今後も引き続き議論していく予定。

(6) 2011年の第2回執行委員会会合共同声明に向けて

次回執行委員会会合で発出する共同声明の骨子案について検討を行った。

(7) 国際機関による活動報告（IAEA、GIF）

GIF 平尾議長秘書より、LFR（鉛冷却高速炉）及び MSR（溶融塩炉）に関する覚書への署名状況、INPRO 共催 SFR 安全 WS の開催、SIAP（産業界諮問委）との意見交換等についての紹介がなされた。また、IAEA のディック氏より、核燃料サイクルに関する活動が紹介された。

(8) 次回執行委員会会合

次回、第2回執行委員会会合は2011年9月29日にポーランドでの開催を予定している。

(9) その他

2011年5月現在、IFNEC 参加国 (Participant countries) は 29 カ国、オブザーバー国 (Observer countries) 30 カ国、オブザーバー機関 (Observer organization) は 3 機関。

(了)

第2回 IFNEC 運営グループ会合 参加国リスト

参加国 (14 カ国)	オブザーバー国 (4 カ国) オブザーバー国際機関 (2 機関)
アルゼンチン オーストラリア ブルガリア 中国 フランス ドイツ 日本 韓国 クウェート オランダ オマーン ウクライナ 英国 米国	エジプト モンゴル スペイン シンガポール I A E A G I F